



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 臨床研修部 塩澤 優花

【研究責任者】

聖路加国際病院 臨床研修部 塩澤 優花

【指導医】

聖路加国際病院 女性総合診療部 塩田恭子

乳癌患者の方のうち、妊孕性温存のために

当院の女性総合診療部を受診された方を対象とした

卵巣刺激後のプロゲステロン値と乳癌再発リスクについての研究

1.研究の対象

・2012年1月から2020年8月までに聖路加国際病院に妊孕性温存目的で受診し、当院で卵巣刺激および採卵を行った乳癌患者の方

2.研究の目的・方法

現在乳癌患者の方に化学療法前に妊孕性温存療法を行うことが広く行われています。妊孕性温存のためには卵巣刺激を行う必要があります。卵巣刺激に伴いエストロゲン値とプロゲステロン値が上昇することが知られています。卵巣刺激に伴うエストロゲンの上昇を抑えるため、2006年よりアロマターゼ阻害薬を併用する方法が行われており、アロマターゼ阻害薬を併用して卵巣刺激を行った群と、卵巣刺激を行わなかった群で生存期間に有意差がないことが知られています。現時点で、プロゲステロン値と乳癌再発リスクの関係は知られておらず、今回卵巣刺激後のプロゲステロン値と乳癌再発リスクの関係を明らかにすることを目的としております。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2020年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 生年月日、病歴、乳癌の組織型、乳癌のホルモン受容体の有無、ステージ、手術年月日、抗がん剤治療の治療歴、カルテ番号 等